

経営比較分析表（平成28年度決算）

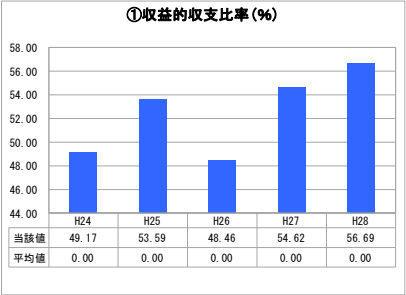
埼玉県 川越市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	0.70	100.00	2,829

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
351,654	109.13	3,222.34
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
2,474	0.67	3,692.54

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



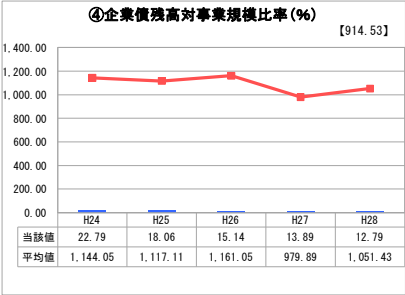
「単年度の収支」



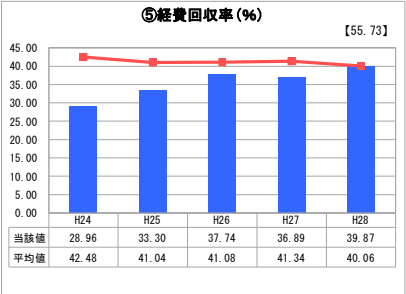
「累積欠損」



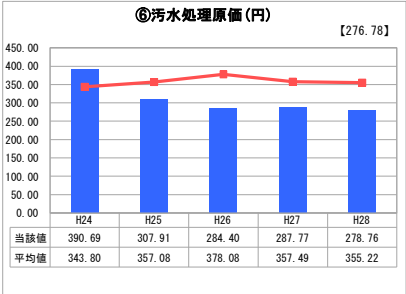
「支払能力」



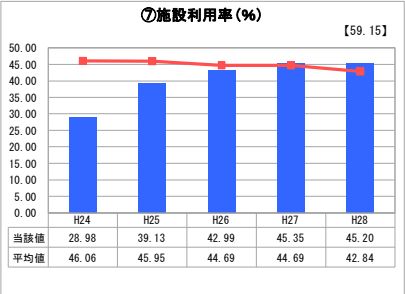
「債務残高」



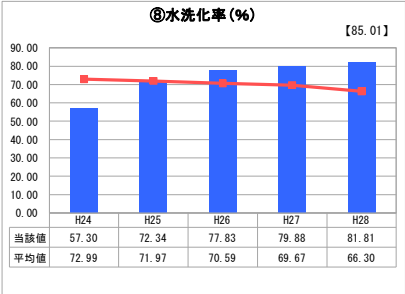
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

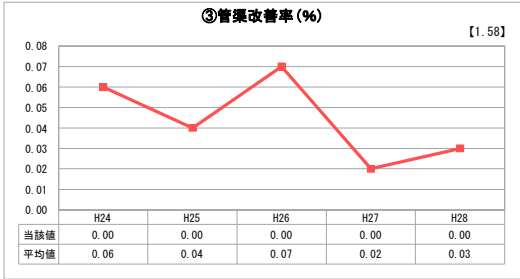
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率
経年で比較した場合、指標数値自体は低いものの、ここ3箇年は上昇傾向にある。今後も一般会計からの繰入金に多くを依存していかなければならない状況ではあるが、確実な納付による料金収入の確保が求められる。

④企業債残高対事業規模比率
類似団体と比較すると低い数値で推移している。毎年度の確実な償還によって、少しずつではあるが、減少傾向にある。

⑤経費回収率
類似団体平均と比べ、やや低い状態であったが、ほぼ同水準に推移してきている。今後とも、継続率の向上及び納期限内の確実な納付によって、料金収入の増加を目指すしていく。

⑥汚水処理原価
汚水1mあたりの処理経費としては、近年有収水量が落ち着いていることから、横這い傾向である。類似団体平均と比べると、やや低い状態を維持している。

⑦施設利用率
施設の利用状況や規模において、数年前は類似団体平均と比べて低かったものの、近年はほぼ同程度で推移している。

⑧水洗化率
類似団体の平均値よりもやや高目で推移しているものの、更なる接続促進が求められる。

2. 老朽化の状況について

市内2ヶ所にある農業集落排水処理施設（鴨田地区、石田本郷地区）が供用開始されたのは、それぞれ平成18年、同24年と比較的近年であるため、これまで管渠の更新は行っていない。

全体総括

今後、施設の老朽化によって修繕や維持管理の費用が増加することが予想される。このため、効率の良い更新の検討をするともに、これらの費用を賄う財源の確保に努める。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。